

首都圏での事業強化に 日本ビコーを子会社化

ロングライフH

関西を中心に有料老人ホームと在宅介護事業を展開

するロングライフホールディングス（大阪市、遠藤正一社長）は1日、千葉県で在宅介護事業を展開する日本ビコー（千葉市）を子会社化した。買収額は2億円。ロングライフでは初めての首都圏での在宅介護事業で、「市場規模の大きい首都圏での事業強化の足がかりとする」と管理本部では話す。当面は地域での知名度が高い日本ビコーブランドを残す形で運営し、東京・神奈川で3棟運営する

有料老人ホームとの相乗効果を狙う。ロングライフは関西圏と首都圏で20の有料老人ホームを運営。関西圏では子会社のエルケアで在宅介護事業を展開しているが、首都圏での在宅介護事業は行っていない。千葉県で介護保険前から福祉用具サービスや訪問入浴事業を中心とした在宅介護事業を行ってきた日本ビコーをグループに加えることで、首都圏での事業強化につなげる。当面はエルケアとの事業統合は行わず、日本ビコー

を運営会社として存続させ、大野社長も留任する。ホールディングスから役員を派遣する形で今後の首都圏での事業拡大のベースとする考えだ。日本ビコーの10年6月期の売上高は13億円、営業益は2300万円。

を運営会社として存続させ、大野社長も留任する。ホールディングスから役員を派遣する形で今後の首都圏での事業拡大のベースとする考えだ。日本ビコーの10年6月期の売上高は13億円、営業益は2300万円。